

第十二回近畿手をつなぐ育成会リーダー養成研修会が開催されました。

九月三日(水) 京都府立総合社会福祉会館にて、近畿手をつなぐ育成会のリーダー養成研修会が行われました。すでに支部のリーダーとして活動していただいている支部長の方はじめ、これからの活動に向けてという方もあわせ、大阪市育成会からは二十名もの参加があり、多数のご参加ありがとうございました。参加していただいた皆さまの積極的な姿勢に、これからの活動に向け心強い思いがいたしました。また、この研修会は、これから育成会はどうあるべきなのかを直接、全日本手をつなぐ育成会理事長の副島宏克氏よりうかがう良い機会でもあり

ました。

プログラムは、まず開会あいさつの後、午前中、社会福祉法人 京都ライフサポート協会の理事長樋口幸雄氏が「はぐぐむ・はたらく・豊かに暮らす」というテーマで講演されました。平成十三年秋に法人認可をとり、障害者自立支援法の中で施設を運営されています。新法のさまざまな問題を指摘しながらも、その法の施行によって「とりわけて知的障がい児・者をめぐる諸問題に社会の関心が一定集まったことは、今後の運動にとって大きな前進であったし、障害のある人もない人も住み慣れた地域の中で安心して暮らし、働ける共生社会の実現に必要なメニューは出揃ったといえる。」とレジュメに書かれています。そして、講演のなかで、知的障害のある人は、障害が軽くても支援が

必要であり、そして、その支援は生涯にわたって必要であると話されています。国の報酬単価の設定には、その視点が欠けているのではないのでしょうか。二十四時間の支援が必要な最重度といわれる方のケアホームの実現など、制度に合わせるのではなく利用者に合わせてという理念の具現化のひとつの形を見た思いがしました。

- 午後からは、副島氏の講演「これからの育成会活動を考える」・親の汗、福祉を変える、でした。障害児・者をとりまく、これま
- 四、家族支援(子育て支援)
- ・ 早期発見・早期相談体制の確立、
 - ・ 発達障害の問題をかかえる児童の子育て支援
- ・ 働きながら子育てができる支援
- そして、さらに、障害者福祉を充実させる為に、財源の問題・介護保険(高齢者福祉)との関連問題・障

害者権利条約の批准にむけた取り組み等、多くの問題を抱えている今こそ市町村育成会の役割/都道府県・政令市育成会の役割/全日本育成会の役割、それぞれの役割をもって育成会活動を活性化させること、これが重要な課題だと述べられていました。

副島理事長は、十一月一日(土) 十二時三十分から天満橋ドーンセンターで行われます「第八回大阪市育成会大会」に中央情勢報告とシンポジウムのパネリストとして出席いただく予定になっています。全日本手をつなぐ育成会の理事長としての立場にとどまらず、広島県尾道市因島での実践についても、熱く語っていただくとお思いますので、ぜひ、大阪市育成会大会にも足をお運びください。